

令和6年度（2024年度） 第2回社会教育入門講座

<事業報告>

I 事業の概要について

1 事業名

令和6年度（2024年度）第2回社会教育入門講座

2 開催日時

令和6年（2024年）6月27日（木） 15:30～17:00

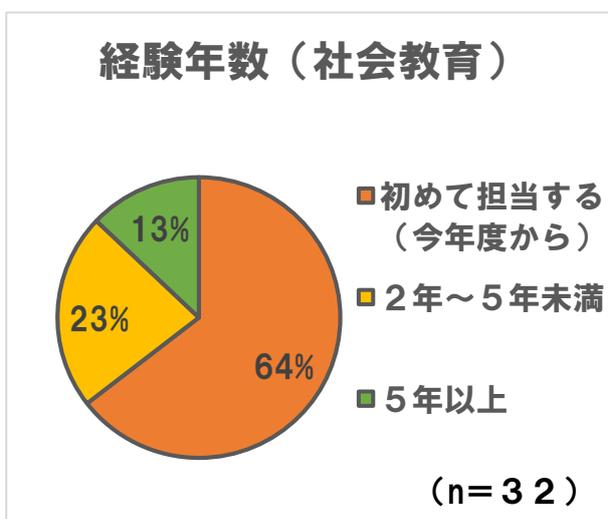
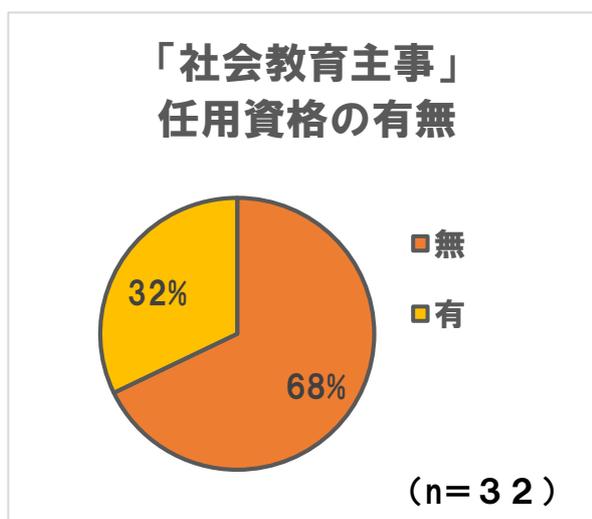
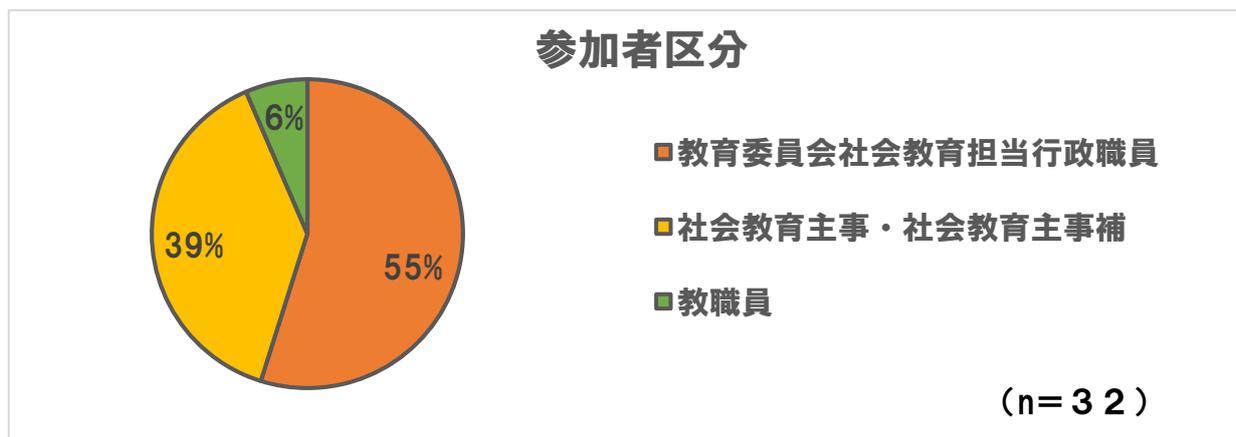
3 開催場所

Web会議システム（Zoom）によるオンライン開催

4 参加人数

41名

5 参加者属性（区分/「社会教育主事」任用資格の有無/社会教育の経験年数）



(次のページへ続く)

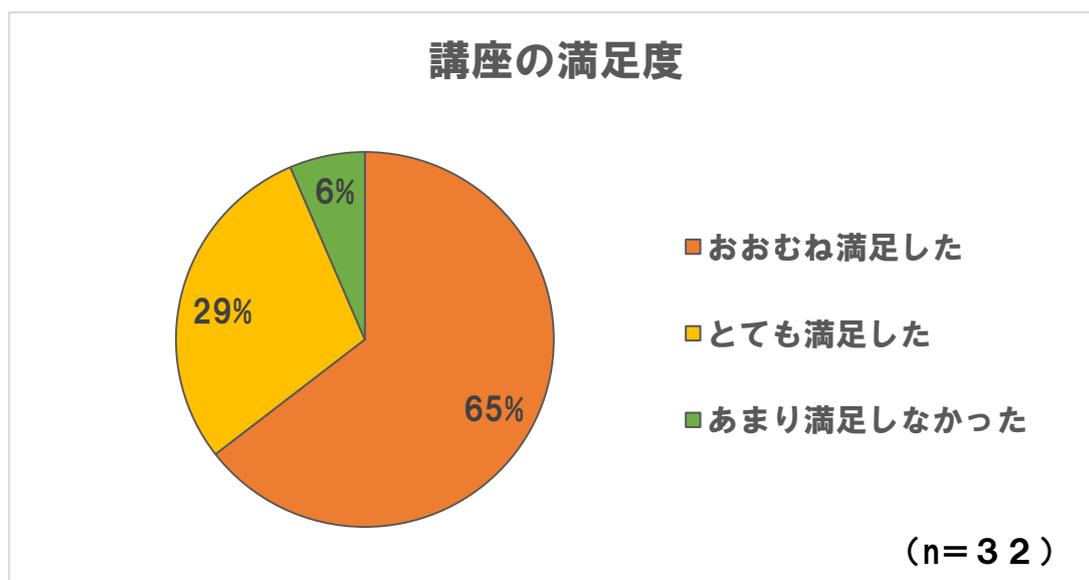
6 プログラム

| | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 15:20 | 15:30 | 16:30 | 17:00 |
| 入室 | 講義 | 情報交流 | 閉会 |

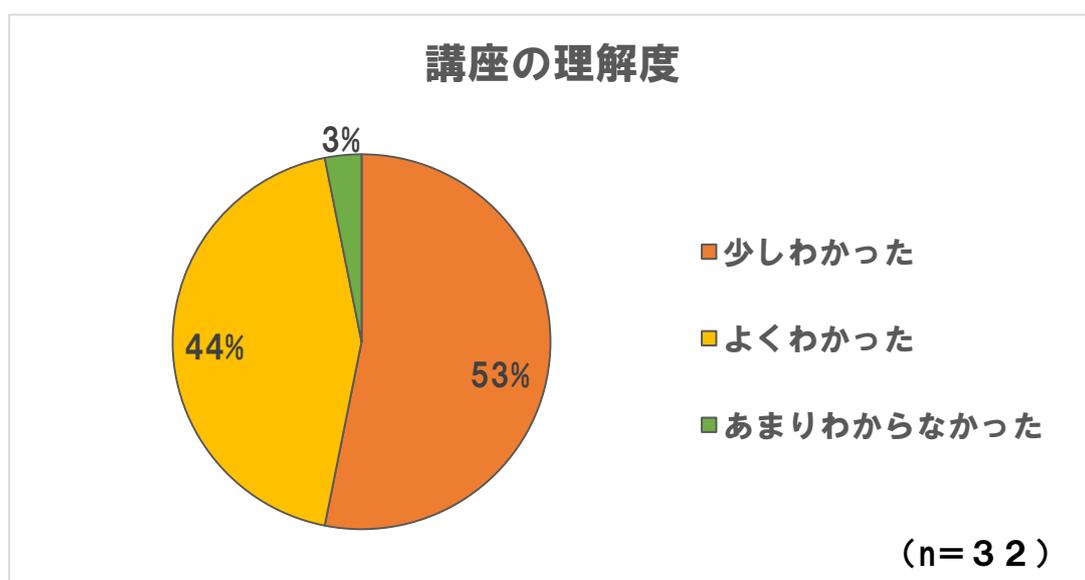
講義：「社会教育今昔物語 そして未来への道しるべ」
講師：新居浜市生涯学習センター所長 関 福生 氏

II アンケート結果

1 本講座の満足度について

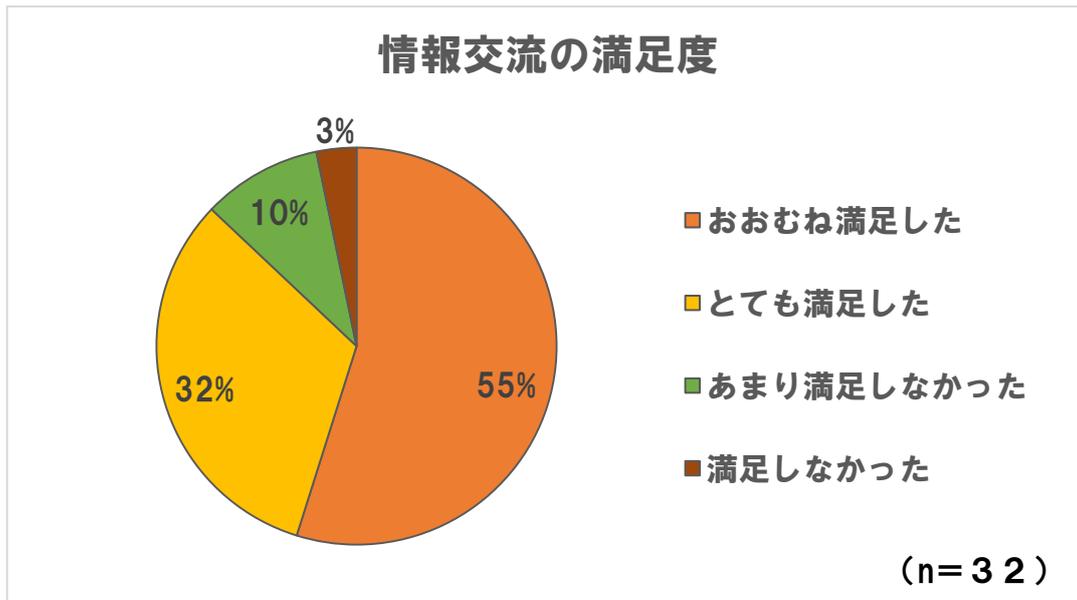


2 講義の理解度について

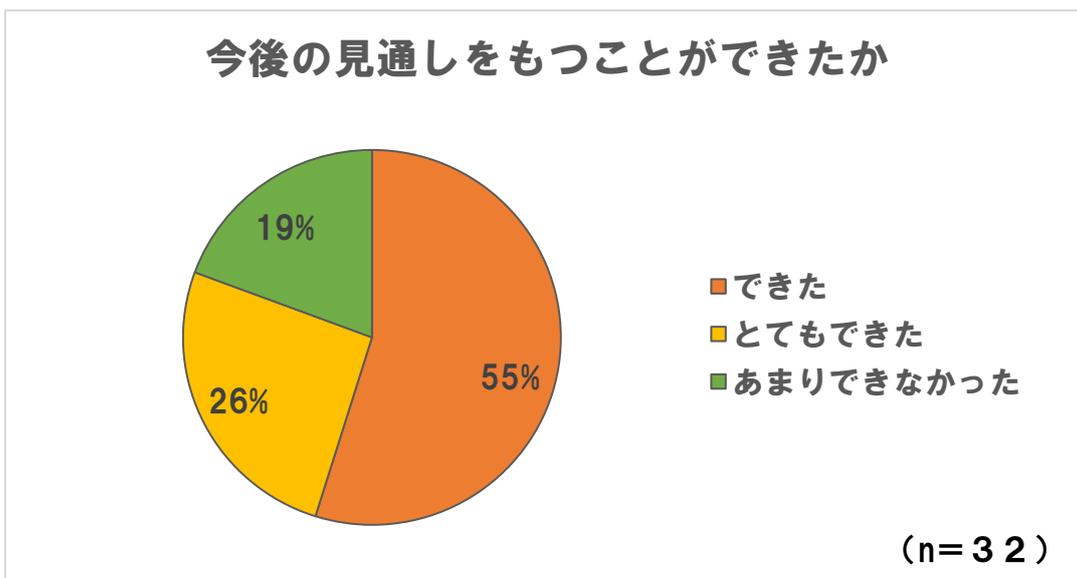


(次のページへ続く)

3 情報交流の満足度



4 講座全体を通して



5 公民館の役割や今後の在り方について、印象に残っていること（自由記述）

- 多様な価値観が交流できる場、サロンではない。
- 公民館の居場所の作り方。
- 「人育ちの場」であるというお話に共感しています。
- 公民館とは、1つの考えだけではなく、様々な考えの人が集まる場所であるということ。
- 他力を集める場という言葉が印象に残りました。みんなが主人公になる仕掛け、考えてみたいと思いました。
- 公民館は人育ちの場である。
- 公民館は借りをつくる場であるということ。
- 公民館とは借りを作る場というのが印象に残った。

(次のページへ続く)

○恩送りの場

○公民館は「恩送り」の場であるというお話が印象に残った。

○公民館は恩送りの場、持続可能な社会の実現

○恩送りの場、「抗」民館。

○公民館が恩送りの場であること。PDCA よりも AAR の話。不易流行の話。

○「恩送り」という言葉。いい言葉だけど、縛られる感覚がある。罪深い言葉。

○公民館は誰も取り残さない学びの砦であることを改めて感じました。

○繋がりが、大事ということ。

○戦後とコロナ明けと今の状況が似ていて、個人から、また集まって、みんなでというように変わっていくのではないか、という考え方です。

○あえて「時代遅れ」を魅力とする、という観点になるほどな、と思いました！

○限られた人が利用する公民館ではなく老若男女問わず多くの人が利用する公民館が必要であるということです。初めて社会教育を担当するものですが、今後お話にあったようにサロンではなくバザールのような賑やかな、多くの人が集う公民館を作るためにどうすれば良いのか考えていきたいと思いました。

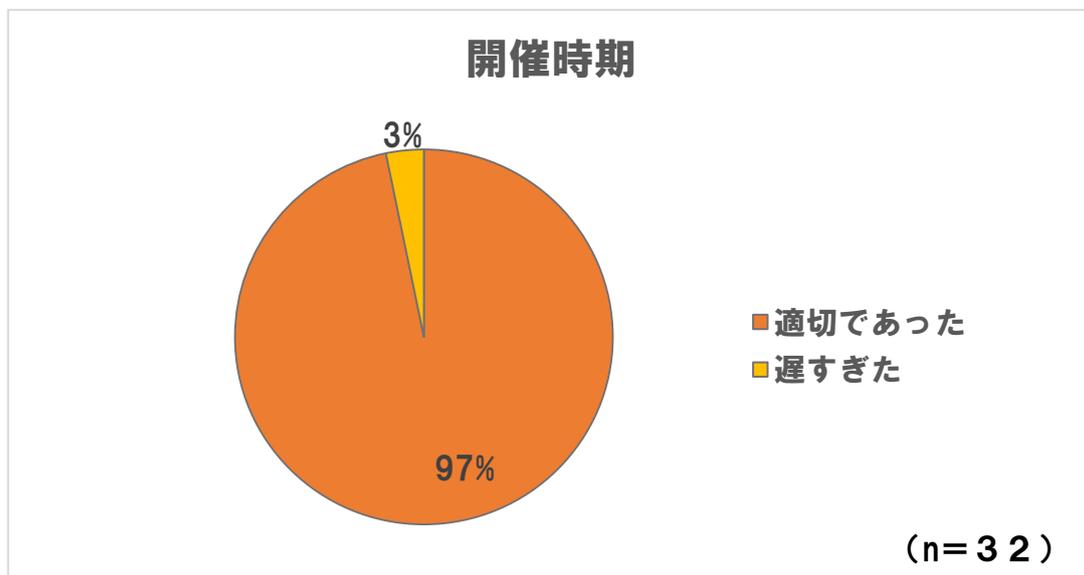
○「公民館は幸民館」という考え方はとても印象に残りました。事業を展開するのであれば、やはり幸福感や達成感、やりがいを感じてもらえた方が参加者にしてもいいと思いますし、主催する側としてもとても有意義に思えると感じました。

○誰一人取り残されない学びについて、もっと深掘りしてお聞きしたかったです。

○地下水脈、脇役、人との関わり、というキーワード。

○地下水脈

6 開催時期について



(次のページへ続く)

7 本講座を通して、感想や理解したこと、気付いたこと（自由記述）

- 第2回から参加させていただきましたが、講義時間が短く感じました。もっと聴いてみたいと思いました。ありがとうございました。
- 後半の未来の公民館の話をもっと聞きたかったです。
- 事業を行うときに目的を意識することで事業の、質が上がる
- 公民館の役割
- 公民館とはどのような役割を担っているかについて勉強になりました。
- 事業をやるにおいて目的をしっかりと考えることが大切だというのがとても納得した
- ディスカッションさせていただいた中で、公民館での活動をお聞きできて良かったです。ディスカッションもあり、大変参考になりました。
- 他の講義やセミナーでも度々「誰一人取り残さない学び」のお話を聞くことがあり、その重要性をより感じた。
- 公民館の業務に携わっているわけではないですが、社会教育に関わっていく上で公民館を理解することはとても重要だと感じています。今日はその歴史や理念を哲学的な切り口で学ぶことができ、大変勉強になりました！
- タイトル通り今と昔の変遷を分かりやすく説明していただき、公民館というものへの理解が深まったと感じている。
- 公民館に求められること、在り方が時代によって変わっているということを本講座により学ぶことができました。
- 「何のために」この一言が強く頭に残りました。日々を振り返り、一つ一つの業務、授業、行事などあらためて意味を考えて見直していきたいと思いました。
- 近年、人が集まれる場が少なくなってきただけでなく、集まりたいと思っている人も減ってきていると感じる。人が集まることの良さを地域の人たちに伝えることや、その機会を作ることが私たちの役目であると感じた。
- 社会教育は深い
- 時代に抗い、古いことをやっても良いのではないか。
- ブレイクアウトルームのメンバーがミュート解除できなく、話し合いができなかった。社会教育担当経験はないです。
- ブレイクルームでの時間について、多くを語り合うにはあまりにも短い時間（個人的に）だなあと感じたので、少し余裕を持って話ができる時間を設定していただくか、あらかじめ何について話し合う（語り合うか）かを明確にさせていただけると大変話しやすいのかと感じました。

8 今後、当講座で取り上げてほしいテーマについて（自由記述）

- 社会教育関係団体とはどんなものがあるか、その役割は、行政とのかかわりは、今後の展望などです。
- 好事例の紹介もありがたいですが、新事業を企画する際に考えなければならないことをテーマにいただけると嬉しいです。
- 合理的配慮についてお聞きしたいです。
- 入門講座からそれてしまうかもしれませんが、事業での緊急時の救急対応講座があったら嬉しいです。
- 主催事業のあり方、SNSの効果的な運用方法、集客（若年層）の方法
- もっと公民館の仕事内容の具体が知りたかった。
- そもそも話として社会教育とはなにか、そのあり方の意味をあらゆる文献から学びたい。